

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子 選

餅花の揺るるたび人現るる

大阪市 立川 六珈
 △評▽風とも言えないほどの気配
 だけで揺れる、餅花の敏感さを表
 現した。人が現れるたびに揺れる
 のでは当たり前。

数ページ破りし跡や古日記

東京 鈴木真理子
 △評▽そのページになにを書いた
 か、自分ではわかってる。それ
 だけに複雑な思いが残る。

書き止しの稿に向かふや初むかし

東京 望月 清彦
 初日の出陽尾より光る上野城
 伊賀市 福沢 義男
 拝むより撮ることばかり初日の出

小林市 黒木 暢

書初や夢といふ文字ひといきに

東京 徳原 伸吉

寫の輪や歌たかだかと惹畑

東京 小島 信子

問診のごと兄からの初電話

加古川市 伏見 昌子

悪相の魚鰯ふ婆や雪催ひ

東京 山口 照男

畦道を集まつて来て除夜詣

羽生市 小菅 純一

井上 康明 選

風かの空へ身をあつてあて

甲府市 清水 輝子
 △評▽「風」は春の季語、のどか
 な春の空に揚がっている。吹く風
 に乗って、青空を右に左に揺れな
 がら自由自在である。

ひこばえや子は遠くとも近くとも

東京 福島 照子
 △評▽ひこばえは春、木の根や切
 り株から伸びる新芽。見ていると
 遠く近くの大切な子を感じ出す。

まなかひの山微動せず寒の晴

鳴川市 西宮 鉄雄
 どか雪や越後の空を塗まてて
 北本市 萩原 行博
 雪女郎素足を入るる緋の鼻緒

加古川市 伏見 昌子

大櫓やいぶりがつこの燻し小屋

仙台市 引地 恵一

寒木のかたへに我も呼吸する

直方市 岩野 伸子

一月の空に触れたる山いくつ

高松市 島田 章平

雪晴れや板橋はせて陶運ぶ

弥富市 富田 範保

見話むれば黄を殖やしけり霜見草

東京 望月 清彦

片山由美子 選

改札に手袋の手を振り合ひて

川口市 高橋さだ子
 △評▽駅の別れの場面とはいえ、
 何かほのぼのとしたものを感じさ
 せる。楽しい時間を共に過ごし、
 すぐにまた会いそうふたり。

貯金通帳初めてつくる冬休み

土浦市 今泉 準一
 △評▽小学校低学年の子だろう
 か。通帳をつくってもらい、お年
 玉を貯金することにしたらしい。

ためらはず優先席に初電車

北九州市 篠原 敬祐
 松納いつももの街の現はるる
 相模原市 はやし 央
 而して羽子ごとく雨樋へ

千葉市 青山希久子

冬菊の香のほとびたる日向かな

鹿児島市 平川 玲子

風と来て何つていばむや寒雀

芦屋市 水越 久哉

湖に深紅の鳥居初明り

浜松市 野畑 明子

薺打つ手元明るくなりけり

羽生市 岡村 実

ポンペイの壁面あかあか春めける

伊賀市 福沢 義男

小川 軽舟 選

出港の長三声や冬の星

臼杵市 村上 玲子
 △評▽長三声は出港する船を見送
 ってる度囁らす長い汽笛。この句
 のゆたかりとした調べは長三声そ
 のものだと思われる。

小夜時雨店をたたみて黙礼す

東京 佐々木俊彦
 △評▽今日が最後の営業だ。なじ
 みの客を見送った後は、稼がせて
 くれた店に感謝をささげる。

赴任地や凍雲割つて着陸す

神戸市 松田 薫
 豚汁が後の楽しみ寒稽古
 木津川市 大村 雅信
 初日の出輝きながら街に満つ

札幌市 若林 陽光

故郷の名残の空や雲光る

那覇市 上江洲一石

一人づつ子供集立ちぬ冬の梅

徳島 坂尾 径生

ハルカスに映る瑞雲初景色

大阪市 福井 天八

一切は捨て去った事初音

一宮市 佐々木延美

ゆく年やすべりおりたるすべり台

いわき市 渡辺 美南

アプリで

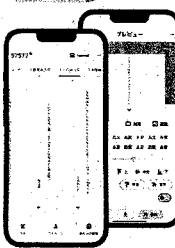
推し短歌

アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の
 天野慶さんが選歌と評を担当します。アプリは右のQRコード
 または<https://tanka.one/>からダウンロードできます。



短歌
 アプリ

57577



お題「喜」

うれしさを言葉にしたらこぼれそう 胸
 のどろが先に笑った イミミミニモ
 「言語化」という言葉をよく目にする
 ようになりました。思っているだけでは
 伝わらないから、言葉にするのは確かに
 大切です。「すくすくうれし」じゃなく
 て、もっと特別な言葉で……そんなふう
 に思い悩む前に「笑った」場所がある。
 それに気が付くセンサーも素晴らしい！
 ・喜びという字に二つ口がありずっとし
 やべっていたい学食 梅木淑紗
 漢字の作りを注目して、その発見から
 歌を詠む。「人」という字は……とドラ
 マの名言にも使われたのと同じ手法で
 す。発見を魅力的な下の句につなげられ
 るかが勝負。「学食」の設定ひとつで、い
 つまでもおしゃべりできるふたりの、奇
 跡のような時間の喜びが広がりました。
 ・どの式の朝にも思う よろこびとさひ
 しさいつだって同じ花 Umi
 胸にコサージュを付け、背筋を伸ばし、
 声を合わせてセリフを言う。送られる立
 場の式。送り出す立場の式。大人になっ
 て立ち会う式。さらに人生に訪れる待ち
 に待った式や思いがけない式も。晴れ晴
 れしさと寂しさが交差する朝に、これから
 何度もこの歌を思い出すでしょう。
 次回のお題「静」(3月9日掲載)